

知恵の樹

No. 163

2011. 12. 21

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方

〒194-0022 FAX 042-722-1243

患者図書館の満足度について



菊池 佑（日本病院患者図書館協会会長、町田市在住）

『クオータリーまちだ市民病院』2011年秋季号の「患者満足度アンケート」報告では、外来と入院での職員対応などは全般的にポイント上昇したという。

さて、治療上やむおえない措置として外出制限がなされる病院では、その代償の一つとして入院患者の教育文化サービスが医療に取り入れられ、「患者図書館」が世に誕生した。

市民病院9階にボランティアが交代で担当の患者図書館がある。貸出は「ノート」に利用者の自己記入方式なので、他人の名前や借り出した本が判り利用者のプライバシーが守られていないのは遺憾に思う。図書館ボランティア活動の「心得」に個人情報保護の項目も入れるべきではないか。

私は病院ボランティア活動を30年以上も続けているのでボランティア活動継続の大変さを身に染みて知っている。ボランティア活動は地域社会で必要な活動であり、私はこれを決して否定しない。

ただし、公園の掃除やトイレ掃除などとは異なり「対人サービス」（本の貸し出し）では、それなりの知識と技術が必要である。図書館サービスの場合、担当者が誰であっても「本を知る」「利用者を知る」「利用者の個人情報保護」は必須である。

町田市民病院は図書館の専門家＝司書が関与すれば満足度のポイントがかなり高くなると思う。司書は社会の動きとそのニーズを把握して資料を揃える専門家である。

時宜を得た本、たとえば原発事故が起きて市民が不安を持てば、放射能の解説本を棚に並べることを忘れない。

病室巡回貸出などで司書を手伝うボランティアは司書のお蔭で蔵書が多種多様になり利用者も増え、活動が刺激的になることは間違いない。寄贈本だけでは利用者は不足感を覚えるであろう。蔵書が充実すれば貸出人数と冊数が増えてボランティアも刺激的な活動になり士気が上がるはずである。

患者図書館を市立図書館の分館に位置付けるよう教育委員会が図ることが必要だと思う。その利点は：入院時も患者は市立図書館の全蔵書にアクセスでき、ボランティアも多種多様な本や雑誌に触れる、また司書との協働で活動内容のレベルアップができると思う。これは即ち利用者の満足度が高まることにつながる。

病院側と教育委員会は以上のことを考慮して患者図書館を市立図書館ネットワークの1つに組み入れるよう願ってやまない。

自治労町田市嘱託職員組合第5回定期大会 報告

於：12月1日（木）19時～ 中央図書館ホール

分厚い議案集をもとに、ホールにおいて定期大会が開催されました。会場に入ると多くの組合員の方がおられ、ひと目で大会が成立していることが分かりました。

次第に沿って開会、議長選出、大会役員選出、野角執行委員長の挨拶で、組合加入率99%であること、団体交渉の結果が今日教育長より回答があったことに触れられていた。

来賓挨拶が自治労都本部から始まり労金、研修講師まで多彩であった。

2011年度活動報告では、処遇改善の取り組みで時間外勤務報酬が4月1日より出るようになったこと。短期の介護休暇、子どもの看護休暇が無給ではあっても認められたこと。スキルアップ講座、組合通信の発行、臨時・非常勤職員200万人署名町田地区実行委員会の集約結果等が報告されていた。また、活動日誌もあり、1年間の経過がよく分かる。

議事で12年度の活動方針が了解され、書記から書記次長と役員名も改正が了承された。役員改選で12年度の役員が選出されたが、

11年度より引き続いての人と新しい人が加わり、新しい人の中に経験豊かそうな人材が多くいる感じがした。

また、会計監査をもう1名増員しようという緊急提案について会場から挙手がありすぐに引き受け手があるという積極性は大したものだった。

全国に数多くの嘱託・臨時職員が図書館で働いている中で、このように組織を持ち、要求を出し、団体交渉をして、成果を出しているところというのは殆ど無いのではないだろうか。自治労そのものが組織としての組合活動を名目的に行っているところが多数なので、それよりずーっと弱い立場である嘱託職員労働組合の成果には目を瞞るものがある。

この成果が全国の同じような立場の人たちの励みになり、さらに町田市立図書館の職場環境改善が進むことを会場で願った。

（会員 玉目哲廉）

もっと、官民 互いに信頼し合おう！

町田市立中央図書館〈「(仮称) 子どもまつり」について〉の集まりがありました
〈於：11月1日(火)14:00～、中央図書館6Fホール 参加：13団体17名〉

表記集まりは、昨年中央図書館20周年を記念して官民協働で行った「フェスタぶらりライブラリーin まちだ」の反省会で、こうした催しを一過性の物にするのではなく、今後も続けていきたいということから、5月に一度昨年参加した団体が話し合った結果、子ども対象の事業として行いたいということから始まったものである。今回、「(仮)子どもまつりについて」の案内が届き参加したので、簡単なお報告と私の考えを記したい。（増山）



はじめに、吉岡係長より約40の団体登録に案内を出したことで、ボランティアが主体的に関わって一緒になって作り上げていこうという簡単な挨拶があった。そのあと、児童担当主

査の渡部さんより、「この事業に関しての予算はない。図書館は会場の確保、広報等出来るだけお手伝いするが、それ以外は皆さんでやって欲しい」、という説明があった。

案内状の「趣旨」にも同じようなことが書かれており、検討事項として、「目的」とか「全体の構成」とかいくつかの項目が並んでいたが、この祭りを事業として行うにあたっての図書館としての目的や理念がどこにも記されていないし言葉にもされないことに、私自身、戸惑いを感じた。

参加団体の中には、ただ、会場を早めに確保でき、図書館がPRして人を集めてくれるという自分たちのメリットだけを考えて参加しているメンバーもいて、これでは、「何のために、図書館で子どもたちに、」という大切な理念が伝わっていかないのでは、と危惧の念を抱いた。

単なるお祭りではなく、様々な地域で活動をしている団体が、自分たちの周りには子どもたちを中央図書館に呼び込み、楽しい読書へとつないでいく、「子ども読書まつり」でなければ、官民協働の意味がないのではないか。

図書館が、この祭りを市民と共に行うにあたって、これ以上仕事量を増やしたくない中でやりたいが、と警戒しているのは、市民の言動にも責任がある。図書館ボランティアとして、子どもの読書環境がどうあって欲しいのかといった活動目的を持たず、ただ子どもに本を読みたい、語りたい、という自己実現

の場として祭りを捉えていては、本当の意味での協働とはいえない。

互いに、ないものねだりで要求ばかりするのではなく、持っている「ものと知恵」を出し合い、目的を達成するためにはどうすれば良いのか話し合い、どういった祭りにするのかの共通認識をもって互いにできるところで楽しく動いていく、といった、あくまでも「児童サービスとしての官民協働祭り」であることを私は望む。

現況のように、図書館対個々のボランティア&団体といった縦のつながりだけでは、図書館の仕事はいやがおうにも増えるのは目に見えている。ボランティア団体同士の横のつながりがあってはじめて、情報交換が出来、知恵を出し合って、共に図書館と手を携えて事業が出来るのではと考えている。そのためには、「読書ボランティア連絡会」を立ち上げることが肝要であるという意見を出したが、この日同席されていた多くの人たちからの賛同を得た。しかし、それも誰かが動かないと実現しないであろう。

所要で終会までいられなかったが、とりあえずは開催しましょうということで、12月6日(火)に第2回の集まりの案内があったが、残念ながら予定があり参加できなかった。

.....
12月6日の第2回会合では、

8 団体が参加すること、それぞれから送られた催しの内容・簡単な説明を図書館で集約し、それを盛り込んだチラシを作成・配布すること、などが決まりました。

まだ歩み始めたばかりで、十分な連携体制にもないのですが、楽しい会にすることで、少しでも春休み中の子どもたちに図書館と本の魅力を伝えられたらと思います。

**2012年3月29日(金)～
4月1日(日)**

ぜひ町田市立中央図書館へ
足をお運びください。

催し物情報

1/9 (月・祝日) 10:30～16:40

第12回子どもに豊かな育ちと読書のよろこびを 学校図書館・公共図書館の充実を求めるつどい in 東京/会場 豊島区民センター (コア・いけぶくろ)

プログラム

【午前】パネルディスカッション「いまこそ子どものための図書館を」新宿・本だいすきの会/山本さゆりさん/山内薫さん/コーディネーター広瀬恒子さん

【午後】分科会①図書館活動と子どもたち ②住民要求に応える図書館活動 ③専任・専門・正規の図書館職員を求める ④講座「子どもの本の現状」赤木かん子さん (児童文学評論家)

参加費 500円 申込み Fax03-5211-0124(全教)/問合せ先 江森(03-3950-6168) 主催 同実行委員会

請願採択になりました！

12月13日（火）午前10時から、市役所5階にて文教社会常任委員会が開かれ、会から出した“すべての町田市立小中学校図書館に「専任・専門の学校司書」の配置を求める請願”は、賛成多数（8：1）で採択となりました。22日の本会議での討議を経て、正式採択となる見込みと思われます。ご協力いただいたみなさまにお礼を申し上げ、この間の会の活動や議論の争点などを報告します。

今までの経過と活動

会では当初6月の請願提出を考えていたのですが、3月の震災もあり、十分な議員への働きかけも出来ていなかったため、見送りました。しかし、夏からいくつかの会派の議員と話す中で、請願を出したほうが議員全員が討論に参加することになるし、うまく採択になればその後の協力もしやすいという話も聞かれ、急遽しゃにむに動いて請願提出・署名集めをすることに決め、多方面に協力をお願いをしました。一方ですべての会派（できれば諸派の議員も）から賛同を得ることを目標に、請願主旨・資料などを議員に配り、面談の約束を取り付け、積極的にお話をさせていただきました。おかげさまで、署名は約1400筆集まり、議員も一つの会派をのぞくすべてから、賛同との回答を得ることができました。

面談を通じて感じたことは、どの会派も大変協力的に面談に応じてくださったこと、ざっくばらんに現状や問題点などを話すことができたこと、なかには「これに反対するところなんてあるかな？」という声も聞かれました。一方で主旨は十分理解できるし、また子どものためならすべて叶えてあげたいところだが、予算処置を伴うものは簡単に賛成するのは難しい、とのシビアな考えも多く聞かれました。簡単に予算が組めるとはもちろん考えてはいませんが、まずは請願を通し、その後またじっくりと粘って

実施にこぎつけようというのが、会としての考えです。いずれにせよこれ以上悪い状態になることは考えられない、となかば背水之陣、といったところもあります。話をしてつくづく、学校司書がどういう仕事をする人なのか具体的なイメージがつかめていないということもよくわかりました。これはおそらく議員だけでなく、一般の人や行政の担当者にもいえることだろうと思われます。

文教社会常任委員会

さてこうして迎えた文教社会常任委員会ですが、はじめに5分の意見陳述をした後、議員からさまざまな質問が出され、それに答え、さらに議員が行政担当者に質問し、討議を経て採決となりました。全体で1時間強を要しました。

主な争点や質問は：

- 1) 現在の教育支援ボランティアという制度は大変上手くいっている。今図書指導員としてその学校で実績を上げている人たちが、司書が入ることで排除されてしまうのではないかという懸念。
- 2) 行政担当者からは、現行の図書指導員制度を待遇も含め見直すつもりでいるので、それを考慮して欲しい。
- 3) 反対した議員からはその理由として、60名も公募して果たして集まるのか、集まらなかったらどうするのか、そうした不安材料

があるものを採択はできない。
などでした。

1については質問として出されましたので、会としては、現在教育支援ボランティアとして活動している人たちがないがしろにする意図はまったくなく、それを批判するものでもないが、現行の校長裁量と不安定で悪い待遇での配置では、優秀な人材は集まらず、定着しないこと、この10数年で学校間格差が大きくなっていること、実際に会としてとった図書指導員アンケート調査でも、「もうやめたいが、引き継ぐ人が見つからず、辞めるにやめられない」といった悲鳴に近い声が多かったことなどを伝えました。また公募する際の資格要件として、司書資格だけでなく、それまでの実績を客観的に評価することも考えられるのではないかとの提案も示しました。

本当に頑張っていて、なおかつ意欲的に継続を望む人がいるのであれば、今までの実績をひき上げて堂々と応募すればいいのではないかと個人的には思います。他の集まりでもいくらか聞こえてきたことですが、「今入っている人たちはどうなるの?」という疑心暗鬼があるようです。しかし、本来専門職として人を入れようとするなら、当然そこに競争が生まれるのは仕方ないことですし、またそれによってお互い切磋琢磨し発展するものだろうと思います。こうした人たちの声はこれからじっくりと聞いていきたいとは思いますが、行政にも議員にも、今いる人たちへの遠慮?がとても感じられ、不思議に思いました。

2と3については、討議の中で出たことで、私には意見を言うチャンスはありませんでしたが、行政からの具体的な提案(どのように待遇を改善するのか、いつまでにするのか)がないものを、いつまでも待てるものではありません。何をかいわんや、です。

また3についても、しっかりとした待遇での

公募に人が集まらないなど考えられません。集まらないとすれば、それは条件が悪いからでしょう。市立図書館の募集に10倍を越す応募があったことをご存知ないのでしょうか。また予算措置についても、それをきちんと実現可能に持っていくのが議員の仕事なんじゃないですか、と思わず声を出したくなりました。国レベルですら、重い腰をやっとこさ上げて、ようやく学校図書館には専任の人が必要なんだと認識を改めつつあるというのに…。

今後に向けて

今回精力的に議員と話をする中で、それなりの手応えも感じられましたので、これからも引き続き、せつせと通って片端から議員を捕まえ?話をしていくつもりです。特に、他市のすぐれた実践事例などをもっともっとお話して、今以上の理解を求めていかなければならない、と感じました。

また同時に現在図書指導員をしている人たちとも十分に話をし、この請願の意図を正確に理解してもらう努力が必要だと強く感じました。特にこれをきっかけに、今までやってきた人たちとの間につまらない誤解から対立が生まれるのは避けたいと思います。しかし同時に、自分の学校での活動を井の中の蛙のごとく、他の実践などと引き比べて本当に誇れるものなのかどうか、謙虚に実証的に問い直そうとしない場合、そしてそれがゆえに現状にしがみつこうとする場合は、対立もやむを得ないことかもしれない、と暗澹とした思いもあります。10数年も放ったらかしにしてきたツケやコケを払拭するのは、並大抵のことではないだろうと思った次第です。(水越)





例会の前に、ホールにて全国図書館大会第18分科

会での中川幾郎氏の基調講演「図書館を支える市民の力」のビデオを観る(手嶋さん&機械操作協力の職員さんに感謝!)。途中から再生機不具合のため中止し、会場を中会議室に移し40分程、定例会。

【話し合われたこと】

・11/28(月)有山崧生誕100周年記念集会(次号に報告を掲載予定)が開催されるが、それに参加されるため、田井郁久雄さんが前日に上京されるとの情報で、会員以外にも呼びかけて急きょ27(日)夜に田井さんを囲む会をすることに。

・野津田公園、ゼルビア球場設立に伴う仮設メディアセンターの設置について(11/16朝日新聞多摩版掲載) / 来年度の試合のため、2億円という多額を投じて、指定管理者に仮設のメディアセンターを造らせ、市はリース料として毎月2000万円を返済しようとしている。新聞に掲載されたが、市民から誰もおかしいという声が出らない。この現状を市民に知らしめるにはどうすればよいか? 野津田雑木林の会は12月議会に請願書を提出するつもり。すすめる会にも賛同してほしい。指定管理者がどういう仕事を請け負っているのか、市議会での情報公開を求めたい(野津田・雑木林の会)。

・町田市民病院患者図書コーナーについて / 医療と地域をつなぐコミュニケーションマガジン「クォーターリー(季刊) まちだ市民病院」(第11号)に患者図書コーナーの紹介として、南棟9階の図書コーナーの紹介記事が掲載されていた。それによると、患者図書コーナーは患者さまが病気や治療についての理解を深め、また、病気と向き合う時間となり、癒しの場所となるよう努めています、とある。利用時間は9時から20時、貸出方法は、貸出ノートに図書名と名前を記入(期限2週間)とあり、市民病院の総務課が

ひろば

例会報告

11/16(水)18:00~20:30

出席者:石井、伊藤、久保、玉目、津田、手嶋、増山、丸岡、桃沢、山口、山本
図書館大会中川氏講演ビデオ鑑賞(池沢、市川、多田、広井)

2011年度 第10回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

2012年 1月19日(木)10:30~11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム

*「ティム一家」(E・ファージョン作) 市川美奈

*「貧乏神」(日本の昔話) 大澤里子

*「番ネズミのヤカちゃん」(R・ウィルバー作)

利根川加代子

直接会場へどうぞ! 無料 保育有

(町田市民文学館 ☎042-739-3420)



このコーナーを管理している。さるびあ図書館より除籍本を回してボランティアが本の管理をしていたが人の確保ができなくなり、ノート管理となったようだ。図書館の除籍本が他の目的に転用されなかったのは良いが、文言に謳っているような患者のためを考えた蔵書構成とは無縁で、個人情報の観点からも問題。入院をしてみても初めて、身近に社会復帰のための情報があるということ、病院患者図書館の必要性を痛感した。→(菊池佑氏にこの記事を送って、「病院患者図書館について」書いていただいたくよう依頼する / 1p参照)

お知らせ (p3もご覧ください)

・2/6(月)18:30~20:30 **子どもの本・九条の会学習会**/会場 生活産業プラザ(池袋駅東口徒歩5分)

/講演「脱原発運動から憲法を考える」鎌田慧さん(ルポライター) / 300円/主催:子どもの本・九条の会 問合せ Fax0493-54-7947(西山)

あとがき

年を重ねるにつれて多忙極まりなく、自分のために時間を持つことの必要性に迫られ久しぶりにダウンした。今号は水越さんが編集を引き受けて下さり感謝! 良いお年をお迎えください! (M⁺)

というわけで、無理がたたって御大がダウンしましたので(鬼の攪乱? 失礼)若手?!の水越がピンチヒッターと相成りました。原稿がなかなか集まらず、日頃の増山さんのご苦勞のほどが察せられました。従いまして、今号は若干ページも少なくなっています。

今年には本当に大変な年でした。月日が経つほどに、ショックは薄れても、ことの重さはますます大きのしかかってくるようです。ちょうどステイブ・ジョブズの伝記を読み終えたところで、たくさんの敵をつくりながらもがむしやりに突き進んだ天才の頑固さを少しだけ見習いたいものです。(水)